

6 次産業化が農村社会に及ぼす影響に関する考察 — 韓国の農村集落を事例として —

Study on influence that sixth industry gives to the rural society

— Cases of rural areas in South Korea —

○劉鶴烈* 韓承錫* 中島正裕**
Hagyeol YOU Seungseok HAN Masahiro NAKAJIMA

1 はじめに

韓国では、2000 年代に入ってから農村集落レベルでの補助事業（村づくりなど）が多様な形で行われてきた。補助事業の目的は、農家所得の向上、定住環境の改善、集落環境の改善及び人的キャパシティの強化などである。そのなかで、特に 2010 年代からは農家所得の増大、農村地域での新しい働き場の創出及び農村経済の多角化などを狙った 6 次産業化の取り組みが全国に広がりつつある。これに伴い、関連する補助事業も多様となっている。例えば、6 次産業認証制度、支援センター設置及び現場コーチング制度などがある。そこで本報では、6 次産業化による韓国の農村集落に与えた影響について経済的側面、社会的側面、地域住民の暮らしの側面から明らかにすることを目的とした。

2 調査概要

2.1 調査対象地の選定基準

調査対象地の基本条件は、集落レベルで地域住民主導により 6 次産業化が進んでいるところである。なお、共通基準としては、①中央（地方）政府から 6 次産業化関連の補助事業を受けた集落、②集落住民の 50%以上が当該補助事業に直・間接的に関与していること、③補助事業が推進されてから 5 年以上経過している集落であることにした。この基準に沿って三つの集落を調査対象地として選定した。

2.2 調査方法

本研究の調査方法としては、事例集落の現地に入り、地域住民へのインタビュー調査と事例集落ごとに約 20 名を対象にアンケート調査を実施した（2020 年 5 月～7 月）。インタビュー調査とアンケート調査は Table 1 に示すとおり三つに分けて行った。経済的側面からは地域住民の所得の変化、6 次産業化による新しく生じた働き場の規模などを、社会的側面からは地域（集落）外部との人的交流の度合い、集落内の行事の現況などを、そして、個人暮らしの側面からは余暇生活の変化、幸福の度合いなどである。

Table 1 主な調査項目
Table 1 Major items of survey

大分類	小分類	主な調査項目
経済的側面	地域住民所得	6 次産業経営体の年間給料額、農家の家計所得・貯蓄額の変化など
	働き場、雇用	6 次産業経営体の年間雇用数、地域住民の雇用比率など
社会的側面	外部との交流	集落外の主体との交流実績、外部主体との交流活動の内容など
	集落行事	集落行事への地域住民参加度合い、新しい集落行事の創出など
暮らし側面	余暇生活	地域住民の余暇生活の量的・質的変化、余暇生活への支出額など
	幸福・生きがい	6 次産業化による地域住民の幸福の度合い、生きがいの変化など

3 事例集落における 6 次産業化への取り組み

3.1 事例 1（白石ベックシヨク集落）

白石集落では 2011 年に婦人会の会員 33 人が出資し、営農組合法人を設立した。この法人では、集落で生産されたお米、黒ゴマおよび梅などの地域農産物を原料にして様々な加工品を作っている。さらに、韓国の伝統お菓子作り体験などの農村観光（GT）プログラムも運営し、いわゆる農業の 6 次産業化により地域農産物の付加価値を高めている。このような 6 次産業化の取組が集落に与えて影響は少くない。例えば、高齢者（特に女性）に新たな働き場の提供、地域農産物の活用による地域農業の活性化及

* 忠南研究院

Chung-Nam Institute

*** 東京農工大学大学院農学府

Graduated School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology

キーワード：農村集落、6 次産業化、農村経済活性化

び地域住民の余暇生活の質的变化などが挙げられる。

3.2 事例2（月山ウォルサン集落）

月山集落は2007年に韓国では初めて‘5都2村集落’という都市農村交流事業に積極的に取り組み、韓国のなかでは都市農村交流や農村観光（GT）の優良地域として知られている。集落にあった廃校を都市農村交流拠点施設として活用しながら、以前から取り組んできた農村観光を中心に6次産業化を推進している。とくに地域農業資源を活かした様々な農村観光プログラムを運営している。その結果、集落住民の半分程度が6次産業化の取り組み以前と比べて所得が増えた。さらに、得られた集落共通の収益の一部を集落住民のための福祉、奨学事業などに還元していることも6次産業化の大きな成果のひとつであるといえる。

3.3 事例3（大也島テヤド集落）

大也島集落は、韓国の西海岸に接している漁村集落である。この集落では政府の補助なしで地域住民自ら集落内にあった廃校を買取した。この学校を‘集落学校’という名をつけて集落住民自ら村づくりなどを学習しながら人的キャパシティを高めてきた。そのなかの一つが、集落にある漁業資源を活かした漁業の6次産業化であった。現在は、中央政府により‘漁村体験休養集落’と‘漁村6次産業化集落’に指定され、本格的な漁業6次産業化に取り組んでいる。その結果、集落住民に新しい職場の提供や高齢者に生き甲斐を与えるような成果が得られた。

Table 2 事例集落の概要と6次産業化への取り組み内容
Table 2 Outlook and Initiatives for sixth industry case study area

集落	集落概要	主な取組内容	主な取組成果
白石集落	-人口：210名 -世帯：103号	-婦人会を中心に6次産業営農組合法人設立 -地域農産物を活用し多様な加工品生産、販売 -農村観光（GT）プログラムの運営	-農家所得向上、高齢者のための働き場提供 -地域住民の余暇生活の量的・質的向上 -集落共同体の再生（共同体活動の活性化）
月山集落	-人口：290名 -世帯：140号	-廃校を活用し都市農村交流拠点施設の造成 -都市農村交流を通じて6次産業化取組 -農村人性学校運営（中央政府認証）	-訪問客増加により農家の農業外収入向上 -6次産業化による得られた収益の一部を集落に還元 -外部主体との人的ネットワーク拡大
テヤド集落	-人口：138名 -世帯：75号	-地域内の廃校を地域住民が買収、集落住民の学習施設で活用 -中央政府により漁村体験休養集落に指定 -地域の漁村資源を活かしながら漁業の6次産業化取組	-6次産業化による地域住民に新たな働き場提供 -集落内住民間のコミュニティ活動の活性化 -集落住民の生きがいと集落への愛着心向上

4 6次産業化が農村集落に与えた影響分析

4.1 経済的側面

6次産業化による経済的な効果については全ての調査対象地において、肯定的な影響が及ぼしていることが明らかになった。肯定的影響と言えるのは、地域住民の所得向上と高齢者向けの新たな働き場が生じたことである。例えば、白石集落では、6次産業が始まった2013年には1名の従業員であったが、2019年には20名まで増えた。さらに、20名全員が集落住民であることが大きな成果といえる。他の事例集落でも6次産業化による新たに生じた働き場には、地域住民のうち高齢者に優先的に与えていることが分かった。

4.2 社会的側面

6次産業化が農村社会にも様々な良い影響を及ぼしている。このなかで最も注目したいことは、地域住民の間のコミュニティ活動が活発になったことである。具体的に言えば、地域住民が6次産業化に取り組むようになってから集落内の会合、親睦活動などが復活または活発になったという変化がみられたことである。このように、6次産業化が弱体化していた集落共同体を回復させる一つの鍵になれたことは農村社会の活性化に重要な意味を示している。また、6次産業化により消費者、専門家、民間団体などの外部主体との人的ネットワークが生まれたことも社会的な効果として挙げられる。

4.3 暮らし側面

6次産業化による効果として見逃せないことは、集落住民の暮らしの変化である。最も大きな変化としては、余暇生活の質的な向上、幸福感の向上および生き甲斐が高まったことがあげられる。さらに、集落の地名度と集落に対する愛着も高まったことも肯定的効果としていえる。